

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

| | |
|--------|---------|
| 国立公文書館 | |
| 分類 | |
| | 返 背 |
| 排架番号 | 3 A |
| | 15 |
| | 51-3-12 |

51-3-12

日華基本條約並日滿華共同宣言ニ關スル
帝國政府公表

昭和十五年十一月卅日午後一時發表

本十一月三十日南京ニ於テ日華兩國全權ハ兩國間基本關係ニ關スル
條約、同附屬議定書並ニ附屬議定書ニ關スル兩國全權委員間了解事
項ニ調印シ次イテ日滿華三國全權ハ日滿華共同宣言ニ調印ヲ了セリ
以上ヲ以テ帝國政府ハ汪精衛氏ヲ首班トスル中華民國國民政府ヲ正
式ニ承認シ中華民國國民政府ハ滿洲國ヲ承認シ滿洲國政府ハ中華民
國國民政府ヲ承認セル次第ナリ
關係文書ノ内容ハ左記ノ通ナリ

国立公文書館

| | |
|------|---------------------|
| 分類 | (14) (15) |
| 配架番号 | 3 A 15 1-3-12 |

間ノ好誼ヲ破壞スルガ如キ情狀及原因ヲ撤廢シ且將來ニ互リ之ヲ禁
絶スルコトヲ約ス

第二條

兩國政府ハ文化ノ融合・創造及發展ニ付緊密ニ協力スヘシ

第三條

兩國政府ハ兩國ノ安寧及福祉ヲ危殆ナラシムル一切ノ共產主義的破
壞工作ニ對シ共同シテ防衛ニ當ルコトヲ約ス

兩國政府ハ前項ノ目的ヲ達成スル爲各其ノ領域内ニ於ケル共產分子
及組織ヲ排除スルト共ニ防共ニ關スル情報・宣傳等ニ付緊密ニ協力
スヘシ

日本國ハ兩國共同シテ防共ヲ實行スル爲所要期間中兩國間ニ別ニ協
議決定セラルル所ニ從ヒ所要ノ軍隊ヲ兼護及華北ノ一定地域ニ駐屯
セシムヘシ

第四條

兩國政府ハ中華民國ニ派遣セラレタル日本國軍隊カ別ニ定ムル所ニ依リ撤去ヲ完了スルニ至ル迄共通ノ治安維持ニ付緊密ニ協力スルトヲ約ス

共通ノ治安維持ヲ必要トスル間ニ於ケル日本國軍隊ノ駐屯地域其ノ他ニ關シテハ兩國間ニ別ニ協議決定セラルル所ニ據ル

第五條

中華民國政府ハ日本國カ従前ノ慣例ニ基キ又ハ兩國共通ノ利益ヲ確保スル爲所要期間中兩國間ニ別ニ協議決定セラルル所ニ從ヒ其ノ艦船部隊ヲ中華民國領域内ニ於ケル特定地域ニ駐留セシメ得ルコトヲ承認スヘシ

第六條

兩國政府ハ長短相補ヒ有無相通スルノ趣旨ニ基キ且平等互惠ノ原則ニ依リ兩國間ノ緊密ナル經濟提携ヲ行フヘシ

中華民國政府ハ華北及蒙疆ニ於ケル特定資源就中國防上必要ナル埋藏資源ニ關シ兩國緊密ニ協力シテ之ヲ開發スルコトヲ約諾ス中華民國政府ハ其ノ他ノ地域ニ於ケル國防上必要ナル特定資源ノ開發ニ關シ日本國及日本國臣民ニ對シ必要ナル便宜ヲ提供スヘシ
前項ノ資源ノ利用ニ關シテハ中華民國ノ需要ヲ考慮シ中華民國政府ハ日本國及日本國臣民ニ對シ積極的ニ充分ナル便宜ヲ提供スルモノトス

兩國政府ハ一般通商ヲ振興シ及兩國間ノ物資供給ヲ便宜且合理的ナラシムル爲必要ナル措置ヲ講スヘシ兩國政府ハ揚子江下流地域ニ於ケル通商交易ノ増進竝ニ日本國ト華北及蒙疆トノ間ニ於ケル物資供給ノ合理化ニ付テハ特ニ緊密ニ協力スヘシ
日本國政府ハ中華民國ニ於ケル産業、金融、交通、通信等ノ復興發達ニ付兩國間ノ協議ニ依リ中華民國ニ對シ必要ナル援助乃至協力ヲ爲スヘシ

第七條

本條約ニ基ク日華新關係ノ發展ニ照應シ日本國政府ハ中華民國ニ於テ日本國ノ有スル治外法權ヲ撤廢シ及其ノ租界ヲ還付スヘク中華民國政府ハ自國領域ヲ日本國臣民ノ居住營業ノ爲開放スヘシ

第八條

兩國政府ハ本條約ノ目的ヲ達成スル爲必要ナル具體的事項ニ關シ更ニ約定ヲ締結スルモノトス

第九條

本條約ハ署名ノ日ヨリ實施セラルヘシ

右證據トシテ下名ハ各本國政府ヨリ正當ノ委任ヲ受ケ本條約ニ署名
調印セリ

昭和十五年十一月三十日即チ中華民國二十九年十一月三十日南京ニ
於テ日本文及漢文ヲ以テ本書各二通ヲ作成ス

附屬議定書

本日日本國中華民國間基本關係ニ關スル條約ニ署名スルニ當リ兩國
全權委員ハ左ノ通協定セリ

第一條

中華民國政府ハ日本國力中、華民國領域内ニ於テ現ニ遂行シツツアル
戰爭行為ヲ繼續スル期間中右戰爭行為遂行ニ伴フ特殊事態ノ存在ス
ルコト及日本國力右戰爭行為ノ目的達成上必要ナル措置ヲ執ルコト
ヲ諒解シ之ニ應シ必要ナル措置ヲ講スルモノトス
前項ノ特殊事態ハ戰爭行為繼續中ト雖モ戰爭行為ノ目的達成上支障
ナキ限り情勢ノ推移ニ應シ條約及附屬文書ノ趣旨ニ準據シテ調整セ
ラルヘキモノトス

第二條

從前中華民國臨時政府、中華民國維新政府等ノ辦シタル事項ハ中華
民國政府ニ依リ繼承セラレ差當リ現狀ヲ維持セラレタルモノナルニ

依リ右事項ノ中調整ヲ要スルモノニシテ未タ調整セラレサルモノハ
事態之ヲ許スニ伴ヒ兩國間ノ協議ニ依リ條約及附屬文書ノ趣旨ニ準
據シテ速ニ調整セララルヘキモノトス

第三條

兩國間ノ全般的平和克復シ戰爭狀態終了シタルトキハ日本國軍隊ハ
本日署名セラレタル日本國中華民國間基本關係ニ關スル條約及兩國
間ノ現行約定ニ基キ駐屯スルモノヲ除キ撤去ヲ開始シ治安確立ト共
ニ二年以内ニ之ヲ完了スヘク中華民國政府ハ本期間ニ於テ治安ノ確
立ヲ保障スルモノトス

第四條

中華民國政府ハ事變發生以來中華民國ニ於テ事變ニ因リ日本國臣民
ノ蒙リタル權利利益ノ損害ヲ補償スヘシ
日本國政府ハ事變ノ爲生シタル中華民國難民ノ救濟ニ付中華民國政



第四 中華民國政府ハ對外貿易ニ關シ統制ヲ必要トスル場合ハ自主
的ニ之ヲ行フモノトス但シ條約第六條ニ掲ケラレタル日華經濟提
携ノ原則ト牴觸スルコトヲ得ス又事變繼續中ニ於テハ右統制ニ付
日本國側ト協議スヘキモノトス

第五 中華民國ニ於ケル交通、通信ニ關スル事項ニシテ調整ヲ要ス
ルモノニ付テハ兩國間ニ別ニ協議決定セララルル所ニ從ヒ事態之ヲ
許ス限リ速ニ之カ調整ヲ計ルモノトス

昭和十五年十一月廿一日 日即チ中華民國二十五年十一月廿一日 南亨
ニ於テ日本文及漢文ヲ以テ本書各二通ヲ作成ス

昭和十五年十一月三十日即于康德七年十一月三十日
中華民國二十九年十一月三十日南京ニ於テ